



浦城跡

NPO法人
特定非営利活動法人

浦城の歴史を伝える会

〒018-1601 秋田県南秋田郡八郎潟町貞坂字沢田30
E-mail urajho@town.hachirougata.lg.jp

羽州 三浦氏年表

尼子館碑

五輪塔

副川神社

薬研堀

帯郭

屋敷跡

鐘突堂

武者溜

本丸

羽州 三浦氏の年表

平安時代	794	<ul style="list-style-type: none">●三浦氏、相模の国三浦郡三浦郷に発祥●永保三年(1083～1087年) 後三年の役で高嶽山副川神社社殿を破戒。●治承四年(1180) 源頼朝が伊豆で挙兵。三浦は荷担する。●文治五年(1189) 三浦氏、源頼朝に従い、奥州に赴く。●文治五年(1189) 冬 大河兼任の乱起こる
鎌倉時代	1192	<ul style="list-style-type: none">●建保元年(1213) 三浦氏は北条氏に対して兵を挙げたが滅亡した。●宝治元年(1247) 北条氏による独裁政治を確立。 三浦氏は各地に散る。●元弘元年(1331) 北条高時の楠木正成討伐に三浦時継が加わる。
建武中興	1333	<ul style="list-style-type: none">●正慶二年(1333) 三浦高継は北朝方の尊氏に仕えて南朝方の新田氏の攻撃に遭う。
南北朝	1336	<ul style="list-style-type: none">●建武二年(1335) 「中先代の乱」三浦時継は北条方である。 三浦高通が相模三浦に下り父の跡を継いだ。
室町時代	1392	<ul style="list-style-type: none">●応永二十三年(1416) 前関東管領上杉氏憲兵を挙げた。 「上杉禅秀の乱」三浦高明鎌倉公方足利持氏に属す。●永享十年(1438) 八月「永享の乱」三浦時高鎌倉警固をする。 三浦氏は上杉方として活躍し扇谷上杉氏の重臣になった。●永正九年(1512) 北条早雲は三浦方の要害は次々に落した。●享徳三年(1455) 三浦氏は上杉方として行動した。●永禄六年(1563) 上杉方箕輪城主の三浦氏は武田信玄の攻撃で落城し武田方になる。●永禄十年(1567)頃 三浦氏は秋田実季の幕下となり浦城に入る。
戦国時代	1493	
安土桃山時代	1573	<ul style="list-style-type: none">●天正十三年(1585) 湊合戦で湊側に組し脇本安藤氏に滅ぼされる。●慶長四年(1599)頃 三浦兵庫守盛永の子五郎盛季押切城築城。●慶長五年(1600)頃 浦五郎盛季暗殺される。
江戸時代	1603	<ul style="list-style-type: none">●慶長七年(1602) 佐竹氏秋田入部●慶長十年(1605) 三浦吉右衛門盛宗黒川に居住する。●正徳四年(1714) 佐竹義格公保呂波山(ほろはさん)から延喜式内社を高岳山に移す。

① 尼子館碑



素手に下れば比丘尼館
 三浦尼公の庵住居い
 屋裏にすだく虫の声
 定所音信る鈴虫も
 唯松虫の露時雨
 世法を思いきりざりす
 出候う月も明らかに
 まわらずひとり澄み登る

花尾東の古文による

浦城の支城であったとの伝承があり、落城の跡、三浦氏縁の女が庵を結び落城に散った城主と一族の冥福を祈った跡とされている。

② 五輪塔



発見した当時は藪の中に散在していた。

浦大町は廃仏毀釈(はいぶつきしやく)によって、一村全て神道信者になった。

仏教に関わりのある石仏は放置や無視・排斥をしたらしいので、百年近く発見されなかった。墳墓の

周辺には人骨が多く発見される。歴史の変遷の中で湊合戦に参戦して、絶命した三浦氏一族の骸も埋葬されている可能性が高い。

梵字キャ・カ・ラ・バ・アの部分は全て対をなしていないことから、数多くの碑があったものと推測される。

③ 副川神社



- 永保三年(1083~1087年)後三年の役で高嶽山副川神社破戒とあるが、疑問が多い。
- 正徳四年(1714)佐竹義格公保呂波山から延喜式内社を高嶽山に移し久保田城の北の守りとする。日本北端の延喜式内社となる。

- 里宮と奥殿があり中腹(中の鳥居)には秋田藩山本奉行と秋田奉行が常夜灯をご寄進している。
- 樹齢5百年を超える桜の木は佐竹氏入部以前から神社が存在していた証である。
- 祭神は天照大御神 豊受大神 素戔鳴大神
- 境内の桜の木の樹齡から見て、浦城築城以前に副川神社は存在していたものと思う。

④ 薬研堀



当地の薬研堀は左側の高嶽山の峰と、城郭とを深くV字型に遮断し、峰伝いに進入する敵を防御したものであろう。

薬研

薬作りの道具として用いられたもので、深くV字にくぼんでいる。



⑤ 帯郭



城が攻められた時、城を取り巻く郭で下から攻めて来る敵を防御した。

郭は、城の回りに大きく溝を帯状に造っている所から帯郭と言う。

浦城の帯郭の長さは1.6km位もあったと思われるが、築城から永い年月を経て、城郭の南側の空堀の近くに土砂崩で欠落箇所も見受けられる。

菅江真澄が当地を訪れた時は、城郭の斜面は全て畑になっていたと記録され、図絵にも畑のスケッチが残されていた。これは、落城後帯郭は埋め戻されて畑になり、いまは山林になっているが、杉林の中に段々畑の跡が確認できる。

⑥ 屋敷跡



菅江真澄「霞む月星」文化三年(1806)浦城址を訪れ、村人から聞き書きした文章や伝承を元に想像図を作った。赤い円の中が屋敷跡と呼ばれている。

どのぐらゐの家臣が生活していたかは未定である。

⑦ 鐘突堂



菅江真澄「霞む月星」案内役の村人が「大鐘をかけた櫓跡はあそこ」と説明。鐘突堂と櫓(やぐら)は兼っていたのであるうか。当時幼どの武士は農業に従事していて、いざ緊急事態が発生

したときは、城の大鐘を突き、集結の合図を発する。緊急の場合は早鐘を打たなければならぬので、鐘跡の様なもので叩いたのではなからうか。鐘の叩き方で多様な情報伝達をしたものと思う。

⑧ 武者溜

本丸

伝承の場所
武者溜一の段

武者溜二の段

館下(城下)から緊急事態の発生で集められた武士は武者溜に集結し、三浦兵庫守の「下知(げち)」を待った場所である。(伝承による。)



本丸

武者溜

⑨ 本丸(御座の間)



浦城の三浦氏は永禄十年頃から天正二十年頃(1567~1585)までの短い年月ではあったが、鎌倉を出て上杉・武田と戦国の渦中を果敢に生きて来て、浦城が安住の地になるはずであった。しかし、秋田安藤家の浸襲動に巻き込まれ、武土の義を貫き、華々しく戦国の世に散った。それ故に史実と伝説が多く語り継がれている。

「浦城の歴史を伝える会」では、古文書や伝承を元に復元作業や伝承活動をして戦国時代を再現したい。